

松山ーソウル線の期間増便による経済効果について

○松山ーソウル線の期間増便による経済効果:約 9.53 億円(5か月間)…〔A〕

〔 増便分利用者の消費による経済波及効果は 6.83 億円
 県民が増便分を利用することで得られる便益効果は 2.70 億円 〕

経済効果 (経済波及効果+便益効果)	経済波及効果	直接効果	間接効果	便益効果
9.53 億円	6.83 億円	4.47 億円	2.36 億円	2.70 億円

(算出条件)

- ・週5往復増便(106便)、座席数189席、搭乗率80%、増便による利用者数1.6万人
- ・インバウンド利用者、アウトバウンド利用者の比率は7:3

【参考】

○現行便(週7便)による経済効果:約 32.73 億円(年間)…〔B〕

経済効果 (経済波及効果+便益効果)	経済波及効果	直接効果	間接効果	便益効果
32.73 億円	23.45 億円	15.34 億円	8.10 億円	9.29 億円

○期間増便分を加えた経済効果:約 42.26 億円…〔A+B〕

経済効果 (経済波及効果+便益効果)	経済波及効果	直接効果	間接効果	便益効果
42.26 億円	30.27 億円	19.81 億円	10.46 億円	11.99 億円

経済波及効果

ソウル線を利用して来県した外国人利用者が県内で消費した金額(宿泊費や飲食費、土産代など)のほか、ソウル線を利用する日本人が県内で渡航前後に消費する額(=直接効果)に加え、上記消費額をもとに県内の各産業にもたらされる収益の増加分が新たな消費に向けられる額(=間接効果)を合計したものの。

便益効果

他県の空港を経由した場合と松山空港を利用した場合を比較し、松山空港に国際線が就航していることで県民が削減できる交通費と時間短縮効果を所得機会として評価した額を合計したものの。